



作文・小論文 コンクール を 実施

今年度も、中学生・高校生・教員等を対象とする
作文・小論文コンクールを実施しました。
その審査結果についてご紹介します。



金融広報中央委員会では、中学生や高校生に金融・経済への関心を高めてもらい、また教員の方々の間で金融教育のあり方に関する議論を深めていただくことを目的として、毎年、作文・小論文コンクールを実施しています。今年度の応募状況をみると、高校生・教員部門は昨年度を幾分下回りましたが、中学生部門には昨年度を約一割上回る応募がありました。これらの作品に対し教育関係・金融関係の専門家の方々による厳正な審査をいただき、入賞作品を決定しました。

おかねの作文コンクール(中学生)

今年度42回目を迎えた「おかねの作文コンクール」には、「私の活きたおかねの使い方」、「いま、地域を元気にしている会社や商店について考える」、「将来の夢の実現とおかねの関わり」など6つのテーマに沿って、全国の中学生から作品が寄せられ、応募総数は4522編となりました。個人や家庭・学校での体験を元に、感じたことや考えたことをまとめた作品が多く見受けられました。入賞作品をみると、10年前に立てた子どもの教育費を中

心とした資金プランから気付く親の愛情とお金の大切さ、お金で測ったり買ったりできない価値への想い、そうした想いを受けての家族や学校での話し合いや活動、町で見つけた新しい動きなど、生き方や暮らしに密接な姿を綴った力作が揃いました。

「金融と経済の明日」 小論文コンクール(高校生)

「金融と経済の明日」第7回高校生小論文コンクールには、「あなたのライフプランと働くことについて考えよう」、「超

第42回「おかねの作文」コンクール(敬称略)

特選	「母の未来予想図～ありがとうお母さん～」(金融担当大臣賞) 鹿児島県・薩摩川内市立川内南中学校3年 高田 知和
	「我が家のきまり」(文部科学大臣賞) 大阪府・和泉市立石尾中学校3年 河野 愛香
	「「お金がない」は不幸なこと?」(日本銀行総裁賞) 福岡県・大刀洗町立大刀洗中学校3年 平田 美咲子
	「二十円の価値」(日本PTA全国協議会会長賞) 青森県・平内町立西平内中学校1年 山田 友希
秀作	「不思議なランドマーク」(金融広報中央委員会会長賞) 京都府・洛南高等学校附属中学校2年 中本 賢
	「おかねと人」福島県・福島市立信陵中学校2年 高野 彩佳 「私の生きたお金の使い方」石川県・北陸学院中学校2年 小野澤 佳奈 「ネパール教育援助に参加」京都府・洛南高等学校附属中学校2年 岩破 智弘 「おかねの重み」鹿児島県・鹿児島市立鹿児島玉籠中学校2年 清水 理沙 「働いたお金の価値」新潟県・糸川市立糸川中学校3年 清水 楓

「金融と経済の明日」第7回高校生小論文コンクール(敬称略)

特選	「アート産業で活性化」(金融担当大臣賞) 大阪府・東大谷高等学校1年 西澤 友香梨
	「農業による経済活性化を」(文部科学大臣賞) 東京都・中央大学高等学校3年 日比谷 亘代
	「高齢者が住みよい社会を目指して」(日本銀行総裁賞) 長崎県・長崎県立佐世保高等学校1年 永吉 史典
	「地元への愛で地域おこし」(全国公民科・社会科教育研究会会長賞) 大分県大分東明高等学校2年 河野 紗織
秀作	「自分だけのライフプランを作るために」(金融広報中央委員会会長賞) 兵庫県・兵庫県立小野高等学校1年 東條 早祐実
	「見つけた夢のために必要なことは」福島県・福島県立福島高等学校1年 伊藤 可奈子 「過疎化と地域経済」福島県・福島県立福島高等学校1年 武藤 由奏 「働くことの意義」三重県・三重県立桑名西高等学校2年 穂坂 喬子 「フードビジネスと日本経済の将来」静岡県・静岡市立商業高等学校3年 杉本 沙希 「これからの福祉の制度」愛知県・愛知県立岡崎商業高等学校3年 村松 里香

「金融教育を考える」第6回小論文コンクール(敬称略)

優秀賞	「これからの時代に求められる金融教育 ～早期に金融教育の独立教科化、一貫教育化、専門教員を拡充することを提言する～」 東京都・早稲田大学大学院ファイナンス研究科 永井 桂太郎
	「働く喜びを引き出すキャリア教育—木工製品の製作から販売まで—」 静岡県・浜松市立佐久間中学校 原田 功
	「地産地消にこだわる(株)HIRAJIMA 海の幸・山の幸プロジェクト」の実践から ～金銭・金融教育のさらなる可能性を希求して～ 徳島県・阿南市立平島小学校 尾川 弘美
奨励賞	「生産・加工・販売・消費活動～第一・二・三次産業と買い物の取組～」 福岡県・添田町立津野中学校 森 孝太郎
	「大学における金融教育拡充に向けた提言」 東京都・学習院大学経済学部非常勤講師 武石 誠
	「私たちが企業を応援することで地球環境問題に貢献できないか —国際社会Fの授業実践を通して—」 東京都・東京学芸大学附属国際中等教育学校 古家 正暢 「危機管理能力を身につけるための金融教育」 東京都・一橋大学大学院商学研究科 真柄 匠

高齢社会におけるこれからの年金・保険」、「日本経済を活性化する将来有望な産業とは」など5つのテーマについて、全国の高校生・高等専門学校生から、1956編の応募がありました。

今年もニュースや資料・データを参照しながら、関心を持った社会問題を論じる作品が多数寄せられました。その中で、高齢者が住み良い社会を目指す若者の気持ちや社会保障を支える仕組みについて検討した作品、これからの日本を支えていくと考えられる産業や身近にみられる地域おこしの動き、将来の夢を実現する上での現実と経済的負担について取り上げたものなどが入賞作品に選ば

れました。

「金融教育を考える」小論文コンクール(教員・研究者等)

教員や教育関係の研究者等を対象とする「金融教育を考える」第6回小論文コンクールには、金融教育を推進するための提言、授業や学校行事での実践の報告やこれに基づく考察を中心に、25編の応募をいただきました。

優秀賞には、金融教育を独立教科とし、小学校から高等学校まで一貫して実施すべきとの提言のほか、小学校・中学校における物の栽培や製造・加工、販売などの就労体験、得られた収益の使い方

を考えることを通じて児童・生徒らが成長していく様子や指導についての報告が選ばれました。また、大学など社会人になる前の段階で金融教育を受ける必要性とその充実に向けた方策を論じたものや、中学校における環境問題に絡めた金融についての授業の実践報告が、奨励賞に選ばれました。

各コンクールの入賞作品は、知るぽるとのホームページ(<http://www.shirupon.jp/>)でご覧になれます。ぜひご参照ください。

なお、これらのコンクールは、平成22年度にも実施(6月頃募集開始)する予定です。多数のご応募をお待ちしています。